



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

令和5年7月

# うるわし通信

## 定時総会ご挨拶

気候変動で亜熱帯のような暑さの日々ですがお元気と存じます。

おかげさまで当会も各位の御尽力により活動を続けて13年目になります。コロナで打撃を受けていた日本も復活再生に向けて動きが活発になってきました。多様化する課題に対し行政だけで解決出来る時代ではなく、これからは行政、企業、民間の3者協働が鍵となって参ります。そのため公益法人の法改正作業も進んでいて近く国会にかかる予定です。

桜井市においても令和6年から始まる5カ年のアクションプランが策定中です。何をするにしても、やはり市民協働が柱にならざるを得ないと思います。

桜井には他にはない優れた有形無形の資産が沢山あります。それぞれが各自で努力しておられるのは勿論ですが連携して相乗効果をあげると一段と活動レベルが飛躍できるに違いありません。

特にいま求められている課題は人づくりだと思います。

0歳から100歳まであらゆる場面において、人づくりとまちづくりを組み合わせたさくら未来戦略をつくり、その旗印のもとに地域共創を官・産・民協働で推進すればきっと成果が上がるように思います。

まちづくりについても桜井の歴史資産は全国的知名度があり、ふるさと納税やクラウドファンディングなど工夫を加えて、ひろく全国から支援を集めることも考えられます。

自助・共助・公助それぞれの場面において、カネがなければ知恵を出す、知恵がなければ汗をかく、知恵も汗もなければ辞表をだすというくらいの息込みが必要ではないでしょうか。

地域共創の取り組みが今年はなんとか一段と進むよう念願しております。

一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会 理事長 堀井良殷



## 講演「スマホ世代の就労支援活動」を聞いて

総会后、桜井市で若者サポートステーション“やまと”で、相談・支援活動をされている原田秀聡さんの講演を聞かせて頂いた。原田さんは、主に子ども達や若い世代（14～49才）を対象に、生活上のさまざまな相談や支援活動に取り組んでおられ、その活動を通じて

- ①現在社会での子どもや若者の現状
- ②彼ら彼女らの抱えている問題や課題
- ③就職活動の特徴や支援方法
- ④私たちに何ができるか

について、データを示しながら、具体的な取組の紹介をされた。



講演を聞かせて頂いて、特に印象深かったスマホ世代の現状と抱える問題や課題について、私が日頃感じている状況よりも一層現状は深刻な状況であることが紹介されたので、その事柄を中心に、講演の報告をします。

### (1) デジタル社会での子ども達・若者の現状～『子供・若者白書』（令和3年版）～

子ども達のスマートホン利用状況は、小学生で53.1%、中学生で79.3%、高校生で98.0%とそれぞれが過去最高となっており、1日3時間以上のインターネット利用時間は、小学生で33.6%、中学生で52.0%、高校生で69.5%、こちらも過去最高となっており、インターネット、SNSの利用が当たり前になっている。

\*最新版の白書では、インターネットを利用する青少年（小・中・高校生）の平均利用時間は、前年度より約1時間増えて、平均4時間24分と報告されている。

そのような状況で、子ども達の中でSNSの利用で、「仲間外しやいじめ」「匿名の落書き」「SNSに起因する犯罪被害にあう児童」などの社会的問題の発生。子どもが減少してきている中で、自殺やいじめ・不登校などの割合が増えてきていることを指摘された。

### (2) ヤングケアラーといった新しい課題への気づきが必要

ヤングケアラーとは、「本来は大人がやるべき家事や家族の世話（ケア）を日常的に行っている18歳未満の子ども」のことを言いますが、原田さんは、当事者が「働いている親の代わりに幼い妹弟の面倒を見ている」「障害のある親や兄弟の身の回りの世話をしている」「精神疾患を抱え、目の離せない親を気づかい、料理や洗濯など大半の家事をしている」など、その生活を当たり前のもので捉えているので、そのことに疑問を持つこともない場合が多くあることが紹介されました。しかし、本来子どもができる範囲を超えて、心身に大きな負担がかかっていることで、学校生活面での様々な障壁を抱えることとなったり、世話の疲れから心身に不調をきたす恐れ、同年代の友だちと過ごす時間が減ったり、自分の趣味や好きなことをする時間がなくなったりして、同年代の友人とのコミュニケーションが取れず、「自分は周りとは違う」と悩みや孤独を抱える子ども達もいます。

私たちは、このような現状にどれだけ向き合っているのか。身近な地域社会の中で親子の対話を含め、子ども達との積極的な接触を作り出すことの必要性や、課題を背負っている子ども達に寄り添う大切さを再確認することとなりました。

事務局理事 楠木 克弘



若者サポートステーションやまと  
〒633-0091 奈良県桜井市大字桜井192-2  
0744-44-2055



## ユニバーサルデザイン(UD)って？

NPO法人コミュニケーション研究センター（CCS）は、令和5年5月27日、奈良県社会福祉総合センターにおいて、UD講演会「だれもが暮らしやすいまちづくりーユニバーサルデザインがえがく共生社会の心とカタチ」を開催した。講師は田中直人氏、一級建築士で島根大学客員教授「こうべUD広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）」座長（2004年～現在）、（一社）UD総合研究ネットワークの代表もつとめる。

参加者総数は34名。奈良市、天理市、桜井市、橿原市、大和高田市、吉野郡など広域にわたる地域からの参加であった。所属も、公立看護専門学校、社会福祉団体、障害者団体、老人クラブ、リハビリテーションサービスセンター、設計事務所、まちづくり団体、まちづくり会社、ゲストハウス、地方議会など多様であった。

講演の内容は、ユニバーサルデザインの考えと基本原則、バリアフリー（BF）との相違、デンマークやオランダなどUD先進国の事例紹介を柱にしていた。講演終了後、予定の時間を



写真中央 田中直人講師

大幅に超えて、講師と参加者との間に活発な質疑応答が交わされた。

UDとは、「年齢、性別、言語、障害の有無などの違いにかかわらず、はじめからすべての人にとって安心・安全で利用しやすいように建物、製品、サービスなどを計画し設計する考え方」をいう。

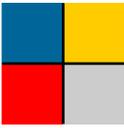
日本では、今、経済的な豊かさや利便性を重視する「成長社会」から精神的な豊かさや生活の質の向上を最優先する「成熟社会」への移行に向けて理念上の取組が様々になされている。UDは、その中で、21世紀の成熟社会を真に豊かな社会にするための社会変革の手法としてその成果が期待されている。誰もが相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら快適に暮らすことができる社会環境を整備するーこの環境整備としてのUDのデザイン手法を実践することは、「成熟社会」という未来社会のヴィジョンを現実化する最も有効なプロセスであるからだ。



バリアフリーとは違う？すべての人のための「ユニバーサルデザイン」

UD講演会の開催は、奈良県の中南和地区にユニバーサルなまちをつくるためのささやかな取組である。「ユニバーサル社会」の社会像を共有していただける人が一人でも増えることを願う企画である。

（CCS代表 島岡 將）



## うるわしの桜井をつくる会事業計画

- 6月18日の総会にて以下の事業計画が承認されました。
  - ① 今秋 磯田道史 氏 講演会(国際日本文化研究センター教授)
  - ② 11月4日(土) 土舞台顕彰会参加
  - ③ 令和5年11月 うるわし通信100号発行
  - ④ 桜井市観光フォーラムの開催
  - ⑤ 人口問題・地域課題研究会の発足



## 桜井図書館友の会

- 7月の読書会は、『侍女の物語』 マーガレット アトウッド (著)です。ギレアデ共和国の侍女オブフレッド。彼女の役目はただひとつ、配属先の邸宅の主である司令官の子を産むことだ。しかし彼女は…
- 日 時：7月25日(火)15：00から  
場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)  
問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949 友の会会員以外の参加も歓迎します。



## 編集子のつぶやき

大相撲桜井場所ののぼり旗が市内の各所で見るようになった。今年の10月20日に芝運動公園総合体育館で開催され、後援団体には奈良県や桜井市をはじめ市内の諸々の団体・組織の名が連ねられている。

桜井は、日本書紀に「垂仁天皇7年7月7日に「野見宿禰」と「當麻蹶速」の相撲が行われ、「野見宿禰」が勝利した」と記されていることから、相撲発祥の地として自他ともに知られているところである。しかし、61年前の昭和37年(1962)10月6日に穴師の相撲神社において、当時の時津風理事長を祭主に、大鵬、柏戸の両横綱以下全幕内力士が参列して土俵いりが奉納されたことを知っている人はどれだけおられるだろうか。桜井市のホームページでは、【相撲巡業を通して、大相撲の歴史や文化を知ってもらい、現役力士と触れ合う機会を設けてスポーツによる地域の活性化、青少年の健全育成を目指します。また、巡業とあわせて、大相撲桜井場所実行委員会によるフードフェス等を同時開催し、相撲発祥の地のブランド力を高め、相撲の魅力や伝統を活かした地域振興の取組を推進します。】とその開催目的が紹介されている。

「當麻蹶速」を顕彰している葛城市では、相撲館 けはや座を平成2年5月に開館し、継続的に相撲文化の普及に努めている。記紀万葉プロジェクト事業を通じて「野見宿禰」のレリーフを相撲神社に設置した桜井が、大相撲開催を契機に一層の取組みを願う市民は多

うるわし通信発行人  
ひがし俊克  
TEL:090-3652-8104